

手

を打たないまま改革しなければ、数年後には財政再建団体へ転落する可能性があるという財政シミュレーションの精度を上げ、町はいま、コロナ禍の影響を詳細に分析しています。

私たちは過去の教訓から、将来を見据えることで危機を回避し、目の前の壁を越えるだけでなく、さらにその先に向けたチャレンジが必要であることを学びました。

そして実際に、いくつもの壁を越えてきました。

このような時にこそ、たくましい地域力がこの町にあることを私たちは今こそ思い起こす時ではないでしょうか。

これまで、いくつもの壁を越えてきたこの町。どの局面も先人たちが支えたのは、心の奥底にある郷土への誇り、そして、家族への愛でした。

受け継ぎ、磨き上げ、次代へとつなぐ——。この町でなければできないまちづくりを重ねた地域力で、未知なる目の前の壁を越え、次のステージへと向かっていきます。

この町には、チカラがある。

その先へ

未知なる未踏の壁を 培った力で越えていく。

新型コロナという想定外の障壁を目の前にする今、過去の教訓を胸にその先を見据え、まちは動き始めています。



◎ 植草 歩 選手／JAL 所属
空手道の組手種目で女子史上初となる全日本選手権4連覇を達成。3年連続プレミアリーグ年間世界王者に輝く。東京オリンピック空手種目の金メダル最有力候補。昨年の「JAL 福智スイーツ大茶会」スイーツコンテストで特別審査委員を務める。

壁を越え、その先へ

福智山の山頂から福智町を望む植草歩選手（JAL 所属）。まちの地方創生に欠かせない、全国に向け町の魅力を発信するタウンプロモーション。JAL との企業連携から実現する観光 PR パンフレットの編集に取り組んでいます。



1



2



3



4

その先と今を見据え動き出した町内の取り組み。1 AI を活用した公共交通システムの先進事例を共有する委員会。2 ふじ湯の里で日常の癒しを掲げたワーケーションの実証事業。3 窯開きイベントが中止になる中、家飲み・家食をテーマにウェブ通販の作品を成形する上野焼窯元（渡窯）。4 生きる力と将来の選択肢を広げることを目的に初開催した日本航空のキャリア教育。

その先を見据えた まちづくりの進化へ

私は「ピンチはチャンス」だととらえています。しかしピンチになってから動き出したのでは「ピンチはピンチ」のままです。ピンチをチャンスに変えるには、先を見据え成長し続けることが必要です。そのことが持続を可能とし、ま

ちづくりの高度化、進化へつながるものと信じています。

町政の合理化は進んできたものの、その予算規模はいまだ類似団体の約1.5倍。課題を先送りせず、また単に施設や機能を廃止するだけでなく、それをカバーする民間力を活用したサービスの維持向上を図る効率化による最適化が求められています。

また「行政は最大のサービス業」と言われる中、目まぐるしく変わる社会において、スピード感をもってニーズに即応できなければ、そこに価値を生むことはできません。

私はこれからのまちづくりは「高度化」「効率化」「スピード化」が鍵であると考えます。

目の前の壁を乗り越えるだけでなく、その先を見据え、さらに進化し、「福智に暮らして良かった」と、だれもが実感できる町に向け、危機感を持ちつつ、希望忘れず、前へと進んでいく覚悟です。

福智町長 黒土 孝司

